

令和 6 年 5 月 17 日現在

機関番号：13301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2021～2023

課題番号：21K00849

研究課題名(和文) 戦前期大阪における花街の総合的研究 芸能を媒介とする社会関係の形成を視点として

研究課題名(英文) Comprehensive research on Kagai in prewar Osaka : From the perspective of the formation of social relationships mediated by the performing arts

研究代表者

笠井 純一 (Kasai, Junichi)

金沢大学・人間社会研究域・客員研究員(金沢大学名誉教授)

研究者番号：80107119

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：戦前期の大阪四花街(北新地、南地、新町、堀江)でどのような芸能が披露され、それを媒介にどのような社会関係が形成されたかについて、史料が豊富に残る北新地を中心に追跡し、史料の翻刻・紹介に基盤を置く出版物2冊(解題論文10編を含む)と報告書1冊を刊行した(他に、学術雑誌・紀要等に5編の論文・史料紹介を公表)。これらにより、北陽浪花踊を核とする北新地の芸能が、舞踊(名古屋西川流、花柳流)だけでなく、音曲や舞台美術面でも大阪以外で発祥した芸術から強い影響を受け、高い水準に達していたことが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

出版物『「大大阪」が育んだ芸能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』は、大阪北新地における北陽浪花踊の関係史料を集大成し、その意義を考究したものである。花街の芸はこれまで、芸能史上で殆ど注視されてこなかったが、本書の刊行によって再評価が進むことが期待される。また『花柳舞踊研究会上演記録 大阪花街に残された二世壽輔の軌跡』は、著名な花柳舞踊研究会の番組を翻刻・注解したもののだが、基本史料である番組は殆ど世に知られていなかった。本書によって、花柳舞踊研究会を中心とする新舞踊運動の姿だけでなく、花街と舞踊界との強い関わりも明らかになった。

研究成果の概要(英文)：What kind of performing arts were performed in Osaka's Kagai (Kitanoshinchi, Nanchi, Shinmachi, and Horie) in the prewar period, and what kind of social relationships were formed through them? We focused our research on Kitanoshinchi, which is rich in historical materials, and published two books (including 10 papers) and one report based on the research and introduction of historical materials. In addition, five papers were published in academic journals and bulletins. Our research has revealed that Hokuyo Naniwa-odori was strongly influenced by the Nagoya-Nishikawa-ryu and Hanayagi-ryu, and reached a high artistic level.

研究分野：日本史学、史料学

キーワード：大阪北新地の芸能 花柳舞踊研究会 田中良 名古屋西川流 花柳流 花街舞踊と新舞踊運動 北陽演舞場 大阪四花街(北新地、南地、新町、堀江)

## 様式 C - 19、F - 19 - 1 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、「戦前期大阪花街の社会的機能に関する基礎的研究: 芸能と社会との関係を中心に」(基盤研究(C)2018~2020 課題番号 18K00925。以下、「前科研」という)を継承し、戦前期の大阪四花街(北新地、南地、新町、堀江)がそれぞれどのような芸能を提供し、それを媒介にどのような社会関係が形成されたのかを、舞踊、音曲、美術、演劇など文献史料以外の史資料も活用しながら、具体的に解明しようとするものであった。あわせて各花街が、戦前期の大阪社会とどのように関わっていたのか、またその関わり方は、同時代の他の都市とはどのように異なっていたかも射程に入れることを目指した。

### 2. 研究の目的

前科研では、大阪四花街に関する重要な問題を論ずることは出来たが、その内容は北新地(および北陽演舞場で上演された北陽浪花踊)に偏っていた。本科研ではこれを戦前期大阪花街全体に拡げ、各花街がどのような特色を持ち、それぞれどのような顧客層を獲得して、都市社会に影響力を持ったのかを追跡することを目的としていた。

また、近代大阪花街の前提として存在した各遊廓の近世から近代にかけての変貌や、大阪と他都市における花街の在り方の対比等も研究目的とした。

### 3. 研究の方法

研究方法としては、史料調査に基づく研究発表と意見交換があるが、コロナ禍によって2021年度には殆ど調査を行うことが出来ず、研究会もオンラインで行なわざるを得なかった。

#### 研究会の開催と意見交換

研究会は8回開催し(第・回は出席者の都合により、同一内容で別日に開催)、12本の報告に基づいて活発な議論を行った。報告者のうち、青木氏、寺田氏、曾田氏は研究協力者である。

2021年12月20日

笠井純一・笠井津加佐「花街舞踊復元の意義と可能性」「北陽浪花踊」の映像資料と音源を素材として」/大西秀紀「住吉踊」音源の紹介」

2021年3月26日

青木慧「江戸文学に記された吉原遊廓の音楽文化—洒落本と随筆を対象に—」/笠井津加佐「大坂新町遊廓の細見について—『廓手引案内』の成立年代と『濔標』宝暦七年版の改刷を中心に—」/笠井純一「大坂新町における「芸子」の発祥について」

2022年12月23日

笠井純一「文献史料検討会」

2022年12月29日

笠井津加佐「北陽浪花踊「浮世絵」の衣裳下絵について」/笠井純一・笠井津加佐「花柳舞踊研究会と大阪北新地」

2023年3月27日・30日

田村義也「演劇博物館所蔵 田中良「舞台装置図」について」/笠井純一・笠井津加佐「演劇博物館所蔵「大坂芝居風俗画 貼交屏風」と佐藤家の「芝居風俗画」について」

2023年7月28日

寺田詩麻「歌舞伎興行と松竹の進出」

2023年9月30日

曾田めぐみ「南粋亭芳雪筆「大坂芝居風俗画 貼交屏風」(早稲田大学演劇博物館蔵)の制作年代と描かれた役者に関する考察 佐藤家資料「芝居風俗画」との関係性に着目して」

#### 史料調査

大阪中之島美術館(2022.8.9, 笠井純一)

東京大学総合図書館(2023.2.2, 笠井純一、笠井津加佐)

早稲田大学演劇博物館(2023.2.3, 田村義也、笠井純一、笠井津加佐)

大林組大阪本店(2023.2.15, 笠井純一、笠井津加佐)

大阪府立中之島図書館、大阪市立中央図書館、国立民族学博物館図書室、国立文楽劇場図書室等(随時、笠井純一、笠井津加佐)

### 4. 研究成果

本研究の成果として、編著書(科研報告書1点を含む)3点、論文・史料紹介16点を編集・刊行・出版した。学会発表は2回(うち1回は国際学会・招待講演)を行った。

#### 編著書

笠井純一・笠井津加佐編『「大大阪」が育んだ芸能—佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』(清文堂出版、2024、B5版444頁)

(概要)大阪北新地の佐藤家に伝わった花街史料のうち、北陽浪花踊の舞台下絵・写真を「図版」とし、「北陽浪花踊番組」の翻刻と注記を掲げただけでなく、それらを補う「参考史料」として、

『浪花踊グラフィック』(第20回浪花踊のグラフ)、『大阪毎日新聞』全面広告(第20~23回浪花踊関係)、木村富子『すみだ川』に収録された浪花踊脚本(第21~23回)を収めた。さらに研究分担者・代表者(塚原康子、山田和人、橋爪節也、大西秀紀、笠井純一、笠井津加佐)による解題論文等8編と、大阪四花街関係諸表(振付者の変遷、音曲関係者の変遷、作歌者の変遷、演目一覧、舞台関係者の変遷、「春の踊」番組所蔵者一覧)を加えた。

図版・番組・参考史料・解題論文等によって、北陽浪花踊が名古屋西川流や花柳流の強い影響を受け、芸術的に高い水準に達していたことが明らかになった。

笠井純一・岡田万里子・笠井津加佐編『花柳舞踊研究会上演記録—大阪花街に残された二世壽輔の軌跡』(清文堂出版、2024、A5版322頁)。

(概要)佐藤家史料の中から検出された、戦前期の「花柳舞踊研究会」番組を翻刻し、同時代史料等によって詳細な注記を加えた。また、研究会と深い関係にあった『福地信世氏追悼舞踊会記念録』、福地信世「綾の鼓」原稿(ともに佐藤家所蔵)を併載した。さらに解題論文2編(執筆者:岡田万里子、笠井純一、笠井津加佐)と、「上演演目索引」「人名索引」を掲載している。

これらの番組等は、他では殆ど残っていないと思われる貴重な史料である。これらが佐藤家に残ったのは、大正末年以降、花柳流が北陽浪花踊の振付を担当するようになり、二世家元壽輔、長崎英造、福地信世、田中良、遠山静雄ら「花柳舞踊研究会」の同人が積極的に参画したこと、北新地の側でも佐藤駒次郎(北陽演舞場の芸芸責任者)を中心に、研究会と密接な関係をもち、その活動を積極的に受容したことによる。

笠井純一編『戦前期大阪花街史料の基礎的研究「住吉踊」の史料的再構成と「佐藤家史料」の目録化』(科研報告書、金沢大学、2024、A4版130頁)。

(概要)前科研による成果を併せて刊行したもので、笠井津加佐・六代目清元菊輔・佐藤恵(花柳祿美之・清元延美智之)による「住吉踊」の史料的再構成と、「佐藤家史料仮目録」を収めた。前者は、佐藤家に残る「住吉踊」の映像(16mmフィルム、昭和4年)、大西秀紀氏提供の「住吉踊」音源(大正13年)、番組に残る歌詞等から、「住吉踊」のどの部分が映像に残っているかを確認するため、映像から切り出した写真、振りの素描、音源から採譜した文化譜の三点を組み合わせて作成した資料である。また「佐藤家史料仮目録」は約1000点に上る所蔵史料のうち、戦前期のものを分類して掲げたものである。

#### 論文・史料紹介等

笠井津加佐・笠井純一「第五回内国勸業博覧会余興「新曲浪花踊」上演と大阪四花街」(『東洋音楽研究』第96号、2021)。

笠井純一・笠井津加佐「大阪北の新地舞踊関係史料—佐藤家所蔵 佐藤駒次郎宛書信(下)—」(『人間社会環境研究』第42号、2021)。

笠井津加佐・笠井純一「大阪府認可 大和屋芸学校稽古表」(『人間社会環境研究』第43号、2021、pp.133-147.)。

笠井津加佐・笠井純一「西川舞踊会」番組(大正六年、大阪南地演舞場)。(『人間社会環境研究』第45号、2023)。

笠井純一・笠井津加佐「戦前期大阪北新地における芸妓の開業・廃業記録」(『人間社会環境研究』第45号、2023)。

塚原康子「戦前期大阪四花街の音楽の担い手—北陽浪花踊を中心に—」(『大大阪』が育んだ藝能—佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』、清文堂出版、2024)。

山田和人「北陽浪花踊と舞台装置」(『大大阪』が育んだ藝能—佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』、清文堂出版、2024)。

橋爪節也「北陽演舞場「浪花賑淀川絵巻」と映画「大大阪観光」をめぐる」(『大大阪』が育んだ藝能—佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』、清文堂出版、2024)。

大西秀紀「大阪四花街のレコード」(『大大阪』が育んだ藝能—佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』、清文堂出版、2024)。

笠井純一・笠井津加佐「大阪北新地における名古屋西川流の足跡」(『大大阪』が育んだ藝能—佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』、清文堂出版、2024)。

笠井津加佐「北陽浪花踊「浮世絵」と花柳舞踊研究会「彦根屏風」—花街舞踊を考える手がかかりとして—」(『大大阪』が育んだ藝能—佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』、清文堂出版、2024)。

笠井純一「北陽浪花踊番組から見る芸妓・芸妓扱店・広告主の動向」(『大大阪』が育んだ藝能—佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』、清文堂出版、2024)。

笠井純一・笠井津加佐「北陽演舞場」写真史料の整理」(『大大阪』が育んだ藝能—佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』、清文堂出版、2024)。

岡田万里子「花柳舞踊研究会の活動—新たに発見された番組を通して—」(『花柳舞踊研究会上演記録—大阪花街に残された二世壽輔の軌跡』、清文堂出版、2024)。

笠井純一・笠井津加佐「花柳舞踊研究会と大阪北新地」(『花柳舞踊研究会上演記録—大阪花街に残された二世壽輔の軌跡』、清文堂出版、2024)。

笠井津加佐(企画/編集)・六代目 清元菊輔(採譜)・佐藤恵(花柳祿美之・清元延美智之、採譜)「住吉踊」の史料的再構成」(『戦前期大阪花街史料の基礎的研究「住吉踊」の史料的再構成と「佐藤家史料」の目録化』(科研報告書)、金沢大学、2024)。

#### 学会発表

笠井津加佐・笠井純一「19世紀末における、日本伝統音楽振興の動向 継山流箏曲組歌伝授書改訂の背景」(中日音楽比較研究及び團伊玖磨先生音楽創作研究国際学術シンポジウム、於福建師範大学、招待講演(国際学会)、オンライン、2021)。

笠井純一・笠井津加佐「花街舞踊復元の意義と可能性 「北陽浪花踊」の映像資料と音源を素材として」(東洋音楽学会第72回大会、於国立民族学博物館、オンライン、2021)。

#### 総括

以上の編著書・論文等・学会発表は、史料が豊富に残る北新地を中心に、戦前期大阪花街における芸能の在り方を追究し、これまで殆ど知られなかったその実態を、史料に基づいて明らかにしたものである。北新地以外の三花街(南地、新町、堀江)について正面から論じることが出来なかったが、論文・論文は四花街全体の音楽状況を解明する手掛かりとなる研究であり、論文は南地五花街の史料を分析したものである。さらに編著書に付した「大阪四花街関係諸表」(振付者の変遷、音曲関係者の変遷、作歌者の変遷、演目一覧、舞台関係者の変遷、「春の踊」番組所蔵者一覧)は、四花街それぞれが上演した「春の踊」の関係者等を一覧するもので、今後の研究に裨益する資料である。また研究会で報告された研究の中には、江戸吉原の音楽状況と社会との関わりや、江戸時代の大坂新町における芸妓の発祥や、幕末～近代初期の芝居に関する研究などもあって、今後の大阪花街研究に多くの示唆を与えるものであった。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 笠井津加佐・笠井純一	4. 巻 45
2. 論文標題 「西川舞踊会」番組（大正六年、大阪南地演舞場）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 1-16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 笠井純一・笠井津加佐	4. 巻 45
2. 論文標題 戦前期大阪北新地における芸妓の開業・廃業記録	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 119-137
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 笠井津加佐・笠井純一	4. 巻 86
2. 論文標題 第五回内国勧業博覧会余興踊「新曲浪花踊」上演と大阪四花街	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 東洋音楽研究	6. 最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 笠井純一・笠井津加佐	4. 巻 42
2. 論文標題 大阪北の新地舞踊関係史料 佐藤家所蔵 佐藤駒次郎宛書信（下）	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 245-261
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 笠井津加佐・笠井純一	4. 巻 43
2. 論文標題 大阪府認可 大和屋芸芸学校稽古表	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人間社会環境研究	6. 最初と最後の頁 133-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 塚原康子	4. 巻 -
2. 論文標題 戦前期大阪四花街の音楽の担い手 北陽浪花踊を中心に	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『「大大阪」が育んだ藝能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』	6. 最初と最後の頁 289-297
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田和人	4. 巻 -
2. 論文標題 北陽浪花踊と舞台装置	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『「大大阪」が育んだ藝能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』	6. 最初と最後の頁 298-326
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 橋爪節也	4. 巻 -
2. 論文標題 北陽演舞場「浪花賑淀川絵巻」と映画「大大阪観光」をめぐる	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『「大大阪」が育んだ藝能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』	6. 最初と最後の頁 327-349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 大西秀紀	4. 巻 -
2. 論文標題 大阪四花街のレコード	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『「大大阪」が育んだ藝能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』	6. 最初と最後の頁 350-357
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井純一・笠井津加佐	4. 巻 -
2. 論文標題 大阪北新地における名古屋西川流の足跡	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『「大大阪」が育んだ藝能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』	6. 最初と最後の頁 358-376
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井津加佐	4. 巻 -
2. 論文標題 北陽浪花踊「浮世絵」と花柳舞踊研究会「彦根屏風」 花街舞踊を考える手がかりとして	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『「大大阪」が育んだ藝能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』	6. 最初と最後の頁 377-393
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井純一	4. 巻 -
2. 論文標題 北陽浪花踊番組から見る芸妓・芸妓扱店・広告主の動向	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『「大大阪」が育んだ藝能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』	6. 最初と最後の頁 394-410
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井津加佐・笠井純一	4. 巻 -
2. 論文標題 「北陽演舞場」写真史料の整理	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『「大大阪」が育んだ藝能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料』	6. 最初と最後の頁 411-417
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岡田万里子	4. 巻 -
2. 論文標題 花柳舞踊研究会の活動 新たに発見された番組を通して	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『花柳舞踊研究会上演記録 大阪花街に残された二世壽輔の軌跡』	6. 最初と最後の頁 235-253
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井純一・笠井津加佐	4. 巻 -
2. 論文標題 花柳舞踊研究会と大阪北新地	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『花柳舞踊研究会上演記録 大阪花街に残された二世壽輔の軌跡』	6. 最初と最後の頁 255-275
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠井津加佐 (企画 / 編集) ・ 六代目 清元菊輔 (採譜) ・ 佐藤恵 (花柳祿美之・清元延美智之、採譜)	4. 巻 -
2. 論文標題 「住吉踊」の史的再構成	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 『戦前期大阪花街史料の基礎的研究 「住吉踊」の史的再構成と「佐藤家史料」の目録化 』 (科研報告書)	6. 最初と最後の頁 3-12, 1-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 1件）

1. 発表者名 笠井津加佐・笠井純一
2. 発表標題 19世紀末における、日本伝統音楽振興の動向 継山流箏曲組歌伝授書改訂の背景
3. 学会等名 中日音楽比較研究及び團伊玖磨先生音楽創作研究国際学術シンポジウム（於 福建師範大学、オンライン）（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 笠井純一・笠井津加佐
2. 発表標題 花街舞踊復元の意義と可能性 「北陽浪花踊」の映像資料と音源を素材として
3. 学会等名 東洋音楽学会 第72回大会（於 国立国立民族学博物館、オンライン）
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 笠井純一・笠井津加佐 編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 444
3. 書名 「大大阪」が育んだ藝能 佐藤家所蔵 北陽浪花踊関係史料	

1. 著者名 笠井純一・岡田万里子・笠井津加佐 編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 清文堂出版	5. 総ページ数 322
3. 書名 花柳舞踊研究会上演記録 大阪花街に残された二世壽輔の軌跡	

1. 著者名 笠井純一 編	4. 発行年 2024年
2. 出版社 金沢大学	5. 総ページ数 128
3. 書名 戦前期大阪花街史料の基礎的研究 「住吉踊」の史料的再構成と「佐藤家史料」の目録化	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	村田 路人  (Murata Michihito)  (40144414)	神戸女子大学・文学部・教授    (34511)	
研究分担者	飯塚 一幸  (Iizuka Kazuyuki)  (50259892)	大阪大学・大学院人文学研究科(人文学専攻、芸術学専攻、 日本学専攻)・教授    (14401)	
研究分担者	山田 和人  (Yamada Kazuhito)  (60191300)	同志社大学・研究開発推進機構・嘱託研究員(同志社大学名 誉教授)    (34310)	
研究分担者	塚原 康子  (Tsukahara Yasuko)  (60202181)	東京藝術大学・音楽学部・教授    (12606)	
研究分担者	岡田 万里子  (Okada Mariko)  (60298198)	桜美林大学・リベラルアーツ学群・教授    (32605)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	橋爪 節也 (Hashidume Setsuya) (70180817)	大阪大学・社会共創本部・教授（大阪大学名誉教授）  (14401)	
研究分担者	田村 義也 (Tamura Yoshiya) (80262096)	成城大学・その他・非常勤講師  (32630)	
研究分担者	笠井 津加佐 (Kasai Tsukasa) (90747114)	金沢大学・人間社会研究域・客員研究員  (13301)	
研究分担者	大西 秀紀 (Onishi Hidenori) (60469111)	京都市立芸術大学・日本伝統音楽研究センター・客員研究員  (24301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	青木 慧 (Aoki Kei)	東京藝術大学大学院・音楽研究科 音楽文化学・博士後期課程	
研究協力者	寺田 詩麻 (Terada Shima)	龍谷大学・文学部・准教授	
研究協力者	曾田 めぐみ (Soda Megumi)	東京藝術大学・大学美術館・学芸研究員	

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------